

魂ほえて飛びついた



東京・渋谷駅前の名物、忠犬ハチ公の銅像が建立されて今年で五十年。これを記念して、八日午後、銅像前で慰霊祭が行われた。飼い主だった故上野英三郎博士の胸像も母校の東大農学部から運ばれ、博士が亡くなってから五十九年ぶりに「対面」した。

ハチ公は、大正十四年に博士が急死してから昭和十年に死ぬまで、博士が健在と思い込み、渋谷駅に出迎えた美談の主の秋田犬。銅像は昭和九年四月、全国からの募金で建てられたが、同二十年、戦時中の金属回収のため撤去され、いまの銅像は、二十三年に再建された。

忠犬ハチ公銅像維持会（会長、並木貞人・渋谷地下街振興組合理事長）主催の慰霊祭は、商店街や渋谷駅関係者、東大農学部学生、買い物客ら約五百人が見守る中で行われ、その忠犬ぶりをたたえた。

59年ぶりに、再会——ハチ公と上野教授の銅像